

令和5年度 「家庭総合（2年）」シラバス

「家庭総合」	単位数	学科・学年・学級
	2単位	普通科・第2学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	人の一生と家族・家庭、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。
使用教科書・副教材等	「家庭総合」－明日の生活を築く－ 開隆堂

2 学習計画及び学習のねらい

学期	月	学 習 内 容 「いつ何を学ぶのか」	学 習 の ね ら い 「何ができるようになるのか、どのような力が身につくことをめざすのか」
第 1 学 期	4	「家庭総合」の学習について 人の一生と発達 ①人の一生と発達課題 ②青年期の課題 ③生活の自立と意思決定 家族・家庭と社会 ①現代の家族と 家庭の機能 ②社会の変化で変わった 家族・家庭 ③家庭生活を支える労働 ④家族と法律	「家庭総合」を学習するにあたって、学習の意義や内容・方法・評価について理解します。 - 生活事象を総合的・多面的にとらえ、自分と他者と交流し、実習や実践をしながら学びます。 - 生涯発達の視点で、各ライフステージの特徴と課題について理解します。 - 長い人生の中の「今」という文脈で、青年期にある自分を見つめなおすことを通じて、これからの人生をどう生きていくかを改めて考えます。 実習1【生活設計シール】 - 自己理解、心身の自立や生活者としての自立などを理解し、青年期の生き方について考えます。 「青年期」がどのような時期かを知るとともに、青年期にある自分自身を見つめなおすことを通じ、これからの生き方や方向性について考えます。 - 適切な意思決定が必要であることを理解し、個人の意思決定は社会のあり方と大きくかかわっていることについて考えます。 - 家族が家族個人の発達に果たしている機能と社会に対して果たしている機能についてそれぞれの歴史的変化、文化や社会による特徴を理解します。 - 日本の親子関係、夫婦関係の現状をおさえながら、現代家族の特徴について考えます。 - 自立について考え、何が求められているのかを理解します。 - 結婚にかかわる意識の変化を知るとともに、結婚に関する現状を理解します。 - 具体的な事例や演習を通して、家族関係の在り方を考えます。 - 生活を支える労働を理解し、家事労働と職業労働から、現状と課題を考えます。 - 婚姻、夫婦、親子などに関する法律の基礎的知識を理解します。 - 家族・家庭と法律は密接な関係にあることを知り、法律が人びとの意識や価値観を変え、法律を変えることによって多様な生き方、考え方のできる社会をつくっていくことを考えます。
	5	⑤これからの家族と 家族支援 着る ①人間と被服 ②衣生活の自立と管理	- 家庭生活を支える社会制度や社会福祉の基本的な理念について理解します。 - これからの家族の多様性が尊重されることや家族一人ひとりの基本的人権が保障されることが大切であることを理解し、困難がある場合の対応策などを考えます。 - 時と場合、目的に適した被服材料や被服の構成及び被服の機能を生かした適切な着装を考えます。 - 着装に関心を持ち、自分の個性をみつめ、自分らしい着装について考えます。

第 1 学 期	6	③被服をつくる	・衣生活を管理する知識と技術を習得します。 ・組成表示や取り扱い絵表示を確認し、着心地や管理を考えた被服の選択ができる力を身につけます。 ・被服材料の性能改善と着心地などについて考えます。 ・どのようにすれば健康で快適な衣生活を送ることができるのかを考え、自分の衣生活をふり返ります。 ・洗濯や手入れなど、自ら衣服を管理する知識と技術を身につけます。 ・和服と洋服の構成上の特徴や被服材料、着装の特徴を理解し、衣服製作の意義と工程を考えます。
	7	④衣生活の文化 ⑤衣生活と環境	・衣服製作の基本を知り、日常生活で必要な基本的な縫い方の技術を習得します。 ① 基礎縫い：ぞうきん縫い（並縫い、まつり縫い） ② エプロン製作（手縫い、エプロン付け） ・衣生活文化の変化と伝承・創造について考え、布を使った伝統的な生活工夫を、現代にどう生かすかを考えます。 ・洗濯が環境に与える影響について認識し、配慮すべきことを考えます。 ・資源の有効利用の観点から循環型の被服計画の必要性について理解します。
	7	ホームプロジェクトと家庭クラブ活動	・家庭科で学習した知識や技術を各自の家庭の中で実際に役立てるために、課題意識をもって、家庭生活の改善向上を目的に、主体的に解決をはかる活動を行います。
第 2 学 期	9	食べる ①人間と食べ物	・各ライフステージにおける食生活の課題を理解します。 ・規則正しい食事は生活活動リズムに影響することを理解します。 ・日常用いられる食品から栄養的な特質などを理解します。 ・食品の腐敗、食中毒、食品添加物について理解します。 ・食品情報を正しく理解できる消費者になる大切さを考えます。
	10	②食品と栄養	・栄養を満たす食事のために、基礎的・基本的知識を身につけます。 ・日常の献立の手順を理解し、食品群別摂取量の目安を満たす1日分の献立について考えます。 ・調理による色、味、テクスチャーなどの変化を食品成分の変化とかかわらせて科学的に理解します。 ・それぞれの調理法の特徴について、調理器具の特徴や取り扱い方などとも関連し、理解します。
	11	③食品の衛生と安全	・行事食や郷土食などの中に生活の知恵が生かされていることについて考えます。 - 実習1：野菜の切り方〔副菜5種類を作る〕 - 実習2：和食〔親子丼、わかめと豆腐のみそ汁〕 - 実習3：中華〔麻婆豆腐、粟米湯、ご飯〕 - 実習4：洋食〔鮭のホイル焼き、コンソメスープ〕
第 3 学 期	12	④食事をつくる	・食文化とその価値、行事食や郷土料理を理解し、また食生活を取り巻く環境が変化している現状を知り、課題解決に向けて考えます。 ・環境保全につながる様々な取組、内容を理解し、望ましい食生活のあり方を考えます。
	12	⑤食生活の文化	
	12	⑥食生活と環境	
第 3 学 期	1	社会参加する消費者	・経済社会の変化に伴う消費生活の変化と現状について理解します。 ・支払い方法の多様化による消費者問題を理解します。 ・消費者が意思決定を行う過程について考え、その重要性について理解します。 ・生活情報の収集・選択と活用について考えます。
	2	①社会の変化と消費生活	
	3	②家計のマネジメント ③消費行動と意思決定	

3 評価の観点、内容および評価方法

評価の観点	評価の内容と方法	
関心・意欲・態度	- 人の一生と家族・家庭、子どもとの関わり、食、消費生活について関心をもったか。 - 生活の充実向上を目指そうとしているか。 - 学んだことを生活に生かそうとする実践的な態度を身につけたか。	- 学習ノート、レポートへの取り組み - ホームプロジェクトでの実践
思考・判断・表現	- 人の一生と家族・家庭、子どもとの関わり、食、消費生活について、自らが課題を見いだしているか。 - 課題の解決を目指して思考を深め、適切に判断する力を身に付けているか。 - 自らの考えを工夫し創造する能力を身につけているか。	- 定期考査 - 学習ノート、レポートの考察内容
技能	人の一生と家族・家庭、子どもとの関わり、食、消費生活に関する技術を総合的に身につけているか。	- ホームプロジェクトの実践内容、発表内容 - 学習ノート、レポート
知識・理解	- 人の一生と家族・家庭、子どもとの関わり、食、消費生活について理解したか。 - 人の一生と家族・家庭、子どもとの関わり、食、消費生活に関する知識を総合的に身につけているか。	- 定期考査 - 学習ノート、レポート

4 各学期、年間の評価方法

●学期ごとの評価は、定期考査60%、その他の評価（学習ノート、提出物、作品、授業態度等）を40%として合わせて評価します。 ●年間の評価は、1～3学期の成績を平均したものに基づいて総合的に評価します。
